

# 北陸地方整備局管内における 日本風景街道の取り組み

北陸地方整備局 道路部 道路計画課

## 1. はじめに

日本風景街道とは、地域住民、NPO、企業、行政などの多様な主体による協働（パートナーシップ）のもと、道を舞台に、自然、歴史、文化などの地域資源を活かした美しい国土景観の形成を図り、地域の活性化や観光の振興への寄与を目指す取り組みです（図1）。

平成19年4月に日本風景街道戦略会議より提言された「日本風景街道の実現に向けて」を踏まえて、枠組みの構築が図られ、同年9月より、地方ブロック毎に設置された「風景街道地方協議会」において、順次登録が行われ、10年以上が経過した現在、全国で141ルートが活動を行っています。

北陸地方整備局管内（以下「北陸管内」という。）においては、計13のルート（図2）が活動を行っており、道路などの清掃・美化活動やルートマップの作成、イベントの開催などを実施しているほか、各ルートの活動内容、仕組みづくりなどに関する情報共有の場として、年に一度、北陸管内のルート代表者が一同に会する「北陸風景街道交流会議」を開催するなど、日本風景街道の活動を推進してきています。

本稿では、北陸管内における各ルートの取り組みや北陸地方整備局としての今後の取り組みについて紹介します。

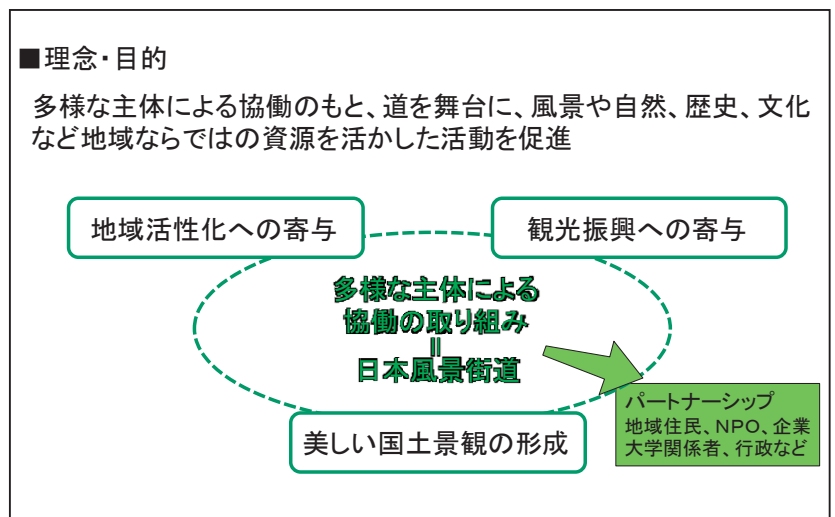


図1 日本風景街道の取り組み

## 北陸 風景街道登録ルート一覧

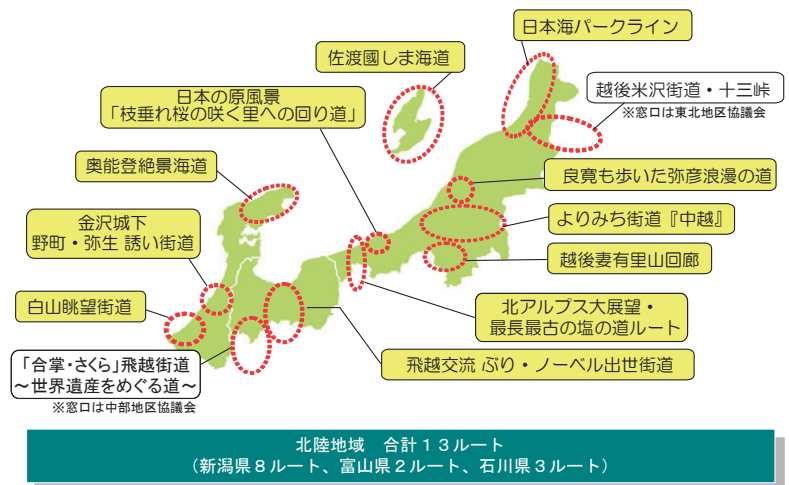


図2 北陸風景街道登録ルート一覧





写真1 江戸時代から続く「キリコまつり」  
(能登半島の各地で行われている)

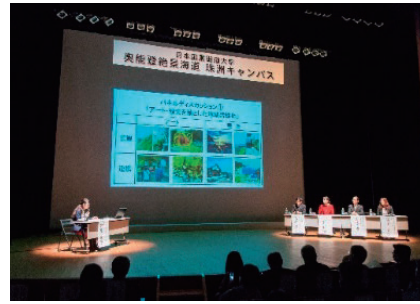


写真2 日本風景街道大学  
(パネルディスカッション)



写真3 日本風景街道大学  
(現地ワークショップ)

② オリジナルグッズの販売による活動資金の確保

当該ルートでは、以前より絶景スポット写真などを活用した絵葉書やカレンダーなどのオリジナルのグッズを販売し、販売収益を道路除草、植栽、海岸清掃や各種イベントの開催などの活動資金に充てています(図5)。

近年では、道の駅と共同で新商品の検討を重ね、地域のPRに役立てること、里山里海の保全に向けた「エコ」な商品であることなどを考慮した中で、日常使える商品として「エコバッグ」に着目し、絶景海道の魅力満載した「トートバック」を企画販売しています。(道の駅、オンラインショッピングなどで販売)



図5 オリジナルグッズ販売等の流れ

## (2) 日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」

### ① ルート概要

当該ルートが位置する新潟県糸魚川市の徳合地域は、戦国時代の山城跡があり、豊かな自然、棚田、茅葺きの古民家といった日本の原風景が広がっています。またルートの沿道にはシンボルとなる樹齢80年の枝垂れ桜をはじめとした桜街道が形成されています。

桜の開花時期にあわせたイベントの開催や地元小学生への課外授業の実施など、これまでの継続的な活動を通じた地域への貢献が評価され、平成29年度には、国土交通大臣表彰である「手づくり郷土賞」を受賞しています（写真5）。



図6 日本の原風景「枝垂れ桜の咲く里への回り道」ルート位置図



写真4 枝垂れ桜と古民家



写真5 「手づくり郷土賞」受賞

② 関連施策の活用や連携による地域の魅力向上

継続的な活動の成果もあり、春のイベントの来訪者が年々増える一方、地域の細街路は桜を楽しむ来訪者と訪れた車によりたびたび混雑が発生するようになりました。このような状況から、地域への流入車両を減らす目的で、平成27年より道の駅と連携し、周辺観光地と道の駅とを結ぶ巡回バスの運行を開始しました(図7)。これにより、イベントへの来訪者も安全に散策を楽しむことが可能となったほか、巡回バスの発着地点である道の駅では、販売ブースを設け地域の特産品を販売することにより、活動資金の確保にもつなげています(写真6)。また、道の駅にとっても集客アップにつながっており、様々な相乗効果が生まれています。

このほか、平成28年度には道路協力団体の指定を受け、国道8号駐車場の清掃、除草活動のほか、特産品の露天販売や自動販売機の設置などを行い、販売で得た収益を清掃活動の資金に還元するなど、様々な施策、制度を上手く活用しながら、地域の魅力向上を図っています。

このような活動を継続することで、近年では、新聞やテレビなどのメディアへの出演や、旅行会社による観光ツアー(写真7)などを通じて認知度も向上してきており、平成24年には約1,000人であった徳合地域への来訪者数が、平成29年には約3,300人に増加しています(図8)。



図7 巡回バスの運行ルート



写真6 道の駅における特産品(メロン等)の販売

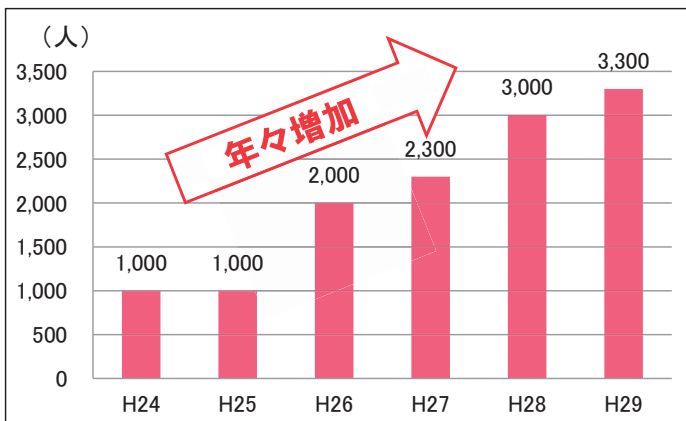


図8 徳合地域への来訪者数推移



写真7 旅行会社による観光ツアー

### (3) 佐渡國しま海道

#### ① ルート概要

佐渡島は離島最大の面積を有し（約 855km<sup>2</sup>・東京 23 区の約 1.4 倍）、海岸線や棚田、旧街道などの景観や歴史などが点在しています。佐渡國しま海道では、この恵まれた自然・文化・歴史と道の関係を再構築することで道自体の価値を高め、風景と風景・人と人を結ぶ道作りを通して観光振興、交流促進、地域の活性化を図ることを目的に活動を行っています。



図 9 佐渡國しま海道 ルート位置図



写真 8 佐渡島の巨岩「ニツ亀」



写真 9 伝統芸能である「鬼太鼓」

## ② 小さな道の駅「寄れっ茶屋」事業

佐渡島内は公衆トイレ、コンビニなどが少ないため、気軽にトイレ休憩などが出来る施設を増やし、観光客と島人の交流によるリピーターの増加を目的として、平成20年度から「寄れっ茶屋」事業を始めました。小さな道の駅をコンセプトとした事業となっており、取り組みに賛同した民家や地元企業(土産屋・旅館など)が施設に登録され、トイレの提供、茶菓のサービス、近辺の観光情報提供などのおもてなしをしています。

また、施設の一覧が付されているマップを作成しており、観光窓口、レンタカー会社などで配布しています。「寄れっ茶屋」事業スタートから10周年となる今年度はマップ(図10)の更新を行いました。



写真10 寄れっ茶屋に登録されている施設(目立つように登旗を挙げている)  
※右は登旗の拡大図

図10 寄れっ茶屋マップ(42施設が登録)

## 3. 管内ルートが集合「北陸風景街道交流会議」

北陸管内における風景街道のさらなる発展、情報共有や人的交流を目的として、各ルートの代表者などが一同に集まる「北陸風景街道交流会議」を北陸地方整備局が事務局となり開催しています。平成18年度から毎年(これまで計12回)開催しており、各ルートの情報共有だけでなく、アドバイザーを招いての意見交換、有識者や全国の活動が盛んなルートなどからの講演を行うことで、各ルートの活動活性化を図っています。



写真11 各ルートの意見交換の様子

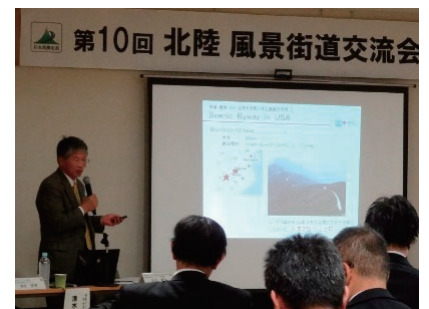


写真12 有識者による講演

また、「北陸風景街道交流会議」は2日間の日程で開催しており、1日目の会議の後、2日目には現地視察を行っています。様々なルートが体験できるよう、開催地を毎年変えており、別のルートの現地視察に

参加することで新たな活動のヒントを得たり、開催地として参加者を迎える際には、自分たちの活動を改めて見直すことにより、これまでの活動の改善点に気づくなど、この交流会議が各ルートの活動のブラッシュアップに上手く活用されていると考えています。



写真 13 現地視察「寺院・茶屋街巡り」の様子  
(石川県金沢市)



写真 14 現地視察「三面川の居繰網漁」の様子  
(新潟県村上市)

#### 4. 北陸地方整備局の今後の取り組み

発足から 10 年以上が経過した「日本風景街道」の取り組みですが、近年における全国的な動きとして、平成 29 年 12 月に設置された『「日本風景街道」有識者懇談会』より、今後の日本風景街道の発展に向けた課題や具体的な取り組みの方向性などが、提言（日本風景街道の発展に向けて：平成 30 年 8 月）としてとりまとめられました。

北陸地方整備局としましても、今回の提言を参考としながら、「活動資金の確保」や「施策の認知度向上」など活動を進めていく上での諸課題に対して、他団体の活動の好事例や助成制度のフィードバック、案内看板の設置検討・SNS サービスを活用した PR（図 11）など、これまで以上に協働体制を強化することで、活動がより発展していくような環境整備に努めてまいります。

また、上述の点以外においても、パートナーシップとの多様な場面での協働を検討し、「日本風景街道」の活動が継続的なものとして定着し、道を舞台に地域の活性化や観光振興が広がっていくよう、引き続き取り組んでまいります。



図 11 「Instagram」を用いた PR 例  
(北陸「道の駅」)